

MEIJI MURA

明治村だより

2021 Winter

Vol.105



CONTENTS

明治村の建築に視る日本近代青春群像物語 [5] …02

みのくち渦巻ポンプ 14件目の重要文化財に指定決定! …05

A La Meiji-Mura

近代監獄建設の歩み …07

博物館明治村 協賛会員 募集案内

博物館明治村では、歴史的建造物の修繕や展示など村内整備の充実を図るため広く皆様のご支援を募っています。

1. 法人会員の種類と会費 (各1口あたり、消費税込)

- 一般会員 10万円
- ゴールド会員 100万円

2. 会費の用途

明治村で展示・保存されている建造物の修繕や、村内の整備など公益目的事業費に充てさせていただきます。

3. 会員期間

入会日より1年間
(入会月の翌年当月末日まで)

4. 会員の特典

- 会員証 (記名式) の発行
- 招待券の贈呈
- 刊行物等の贈呈
- 芳名の掲示
- 法人名の銘板付きベンチの設置 (ゴールド会員のみ)

5. 問い合わせ先

公益財団法人明治村 協賛担当
住所: 〒484-0000
愛知県犬山市宇内山1番地
TEL: 0568-67-0314
E-mail: meiji-info@nrr.meitetsu.co.jp

協賛会員 (令和3年11月1日現在)

敬称略:五十音順

ゴールド会員

大成建設株式会社

矢作建設工業株式会社

一般会員

アイカ工業株式会社

アサヒ飲料株式会社

アサヒビール株式会社

厚見建設工業株式会社

株式会社安藤・間

株式会社磯部組

株式会社伊藤園

伊藤忠商事株式会社

因幡電機産業株式会社

株式会社魚津社寺工務店

株式会社エイムクリエイツ

株式会社NTTドコモ

株式会社NTTファシリティーズ

株式会社大林組

岡谷鋼機株式会社

株式会社オノコム

小原建設株式会社

鹿島建設株式会社

株式会社閃電工

キリンビール株式会社

キリンビバレッジ株式会社

株式会社熊谷組

株式会社鴻池組

ココヨマーケティング株式会社

五洋建設株式会社

株式会社サイマックス

サッポロビール株式会社

佐藤工業株式会社

三幸エステート株式会社

サントリーコーポレートビジネス株式会社

株式会社シーイーテック

柴山コンサルタント株式会社

清水建設株式会社

株式会社新高土木

株式会社スペース

株式会社銭高組

株式会社扇港電機

ダイキン工業株式会社

大興建設株式会社

大成ユーレック株式会社

タイドードリンコ株式会社

株式会社竹中工務店

株式会社谷澤総合鑑定所

株式会社丹青社

中京テレビ放送株式会社

中部スターツ株式会社

鉄建建設株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

株式会社東芝

東洋電機製造株式会社

戸田建設株式会社

名古屋トヨベツ株式会社

西日本電信電話株式会社

西松建設株式会社

能美防災株式会社

株式会社長谷工コーポレーション

株式会社日立製作所

株式会社ファミリーマート

株式会社フジタ

株式会社不動テトラ

ホーチキ株式会社

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

前田建設工業株式会社

三井住友海上火災保険株式会社

三井不動産株式会社

三井不動産ビルマネジメント株式会社

三菱商事株式会社

三菱電機株式会社

三菱ふそうトラック・バス株式会社

名高土木株式会社

名鉄EIエンジニア株式会社

名鉄環境造園株式会社

名鉄ビルディング管理株式会社

株式会社森本組

株式会社ヤシマキザイ

若松物産株式会社

表紙について

雪の洗礼 / 撮影: 佐藤和行
聖ヨハネ教会堂 重要文化財 建設年: 明治40(1907)年

「明治村だより」第105号(令和3年冬号) 令和3年12月10日発行

発行 博物館明治村 〒484-0000 愛知県犬山市宇内山1番地 電話 (0568)67-0314 <https://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」

発行時期 令和4年3月中旬予定

第106号発行のお知らせ

申込方法 「明治村だより」第106号ご希望の旨およびご住所・お名前を明記の上、送料(含発送手数料)140円とともに現金書留にてお申込みください。

西園寺公望別邸「坐漁荘」、 らしくもあり、らしくもない権力者の館

館長 中川武

(その1)



写真1 西園寺公望別邸「坐漁荘」西面

「坐漁荘」
——
伝統数寄屋と近代和風住宅の間
——
伝統的数寄屋の空間手法

御厨貴の「権力の館を歩く」に、
「権力者の館」が政治の世界に顕在化し
継続化したのは「元老西園寺公望」と「坐漁
荘」をもって嚆矢とする。

と書かれている。確かに西園寺が多大な影響
を与えた近衛文麿の杉並区萩窪の自宅「萩外
荘」や吉田茂の神奈川県「大磯御殿」など戦中
戦後にかけての時の権力者の館が、数々の政
治的ドラマの舞台となり、その場の建築空間
の成り立ちや空気感のようなものが、多かれ
少なかれ政治的行動に影響を与えたことは疑
い得ないであろう。

しかし当然のことながら、その影響は微妙
な問題を孕む。とりわけ坐漁荘は、伝統的総
数寄屋造の技と近代和風住宅としての新しい

工夫と気分が洋溢した稀有な名建築といえよ
うが、通常の感覚からすると、権力者の館と述
べるにはあまりにも慎ましく、むしろ、控えめ
な趣味人の建築の風である。このような、伝

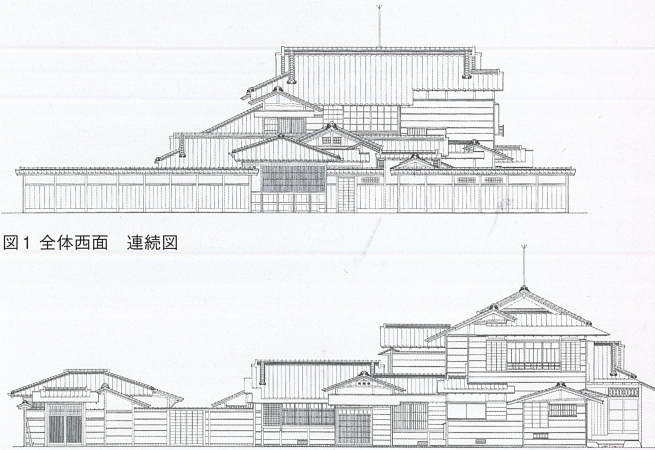


図1 全体西面 連続図

図2 主屋南面 連続図面

統と近代の間にあるような焦点の絞りにくい
住宅の特質をまず明らかにしたいと思う。

間違いなく明治という激動の時代から生れ
出た政治家である西園寺公望は、皇室から頼
りにされた最後の元老と呼ばれるに相応しい
政治家であったが、多様性を超えた複雑微妙
な判断を迫られた続けた生涯であったらうと
言わざるを得ないところがある。政治家とい
うより、西園寺の人間像、あるいは青春像に的
を絞ってみたいと思う。坐漁荘の不思議に迫
る近道かもしれない。

興津の位置する湘南から静岡にかけての海
沿いの地は、明治期以降政財界や文化人の避
寒的別荘地として発展してきた。西園寺は何
度か興津を訪れ、旧東海道に北面し、南側の石
垣下は三保の松原から清見潟、伊豆半島を見
晴らす海辺に続くこの地をいたく気に入った
様子が見えがえる。



写真2 西園寺公望別邸「坐漁荘」南面

まず移築後の現状の姿を見てみよう。南側
の海への眺望を重視したオリジナルな配置の
目的を踏襲するために、軸線を九〇度戻って、
主屋の一番奥の主室である一階御居間（八畳）
と次の間（六畳）、二階御居間（十畳）と次の間
（八畳）の主開口部を入鹿池に向けて東面させ
ている。玄関は主屋中央部に南面しているが、
かつて旧東海道に沿って、舟板の古材を張っ
た低い板塀が伸びていた様子を彷彿とさせる
ように、西側中央部に凹みのアルコーブがあ
る。その左側にはある程度大きさがあるのに
とても警衛詰所には見えない奇棟の細い格子

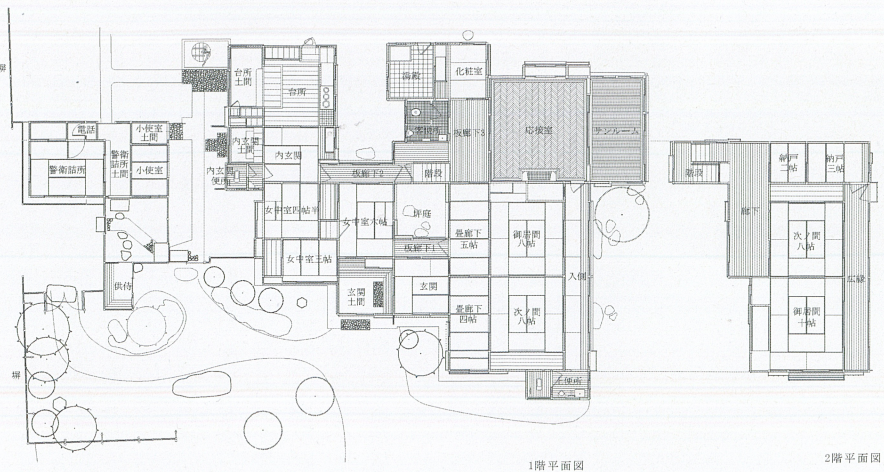


図3 平面図 部屋名入り

構えの附属屋と、その右側に板戸一枚の通用
口があり、右折して正門から入り、左に歩み
を進めるとその脇にひっそりと茶室の雪隠のよ
うな供待がある（図1・2）。

そのまま苑路に導かれ、すぐ左の中潜りに
目を遣ると、左手に警衛詰所棟、右手に女中
室、台所などのサービス部門の内玄関棟に挟
まれ、狭い露地に入って行くような風情があ
る。突き当りの井戸の上にはポンプが見える
など、まさに町屋の風情といえるのではない
か。かつてはこの間隔はもっと広く、旧東海
道側の道路が拡幅されたため、曳家をしてこ
れを縮めたことがわかっている（図4・5）。しか
し、この中潜りは表向きと内向きの、ある種の
ゆとりともいえる複数のアプローチが交錯し
ていることの結果であって、生活動線が行き
止まりにならないための工夫の一環である。
門からの動線に戻り苑路をさらに進むと印
象的な黒松がアイ・ストップとなってそこで
左に目を遣ると、切妻破風に「坐漁荘」の扁額
がかかり、大きな土庇に導かれた正面玄関に
導かれる。大きな構えではあるが、細い柱筋
が中心をはずし、吹き寄せ棧の建具や竹の回
り縁、外壁の杉皮などのさりげなくも巧みに
細く小さく収められた意匠に迎えられる。

写真1、図1・2に視るように外観は、低い
板塀の屋根が屈折して、東側の奥へ進むに
従って、切妻破風の屋根が折り重なり、棟を片
寄せたり、庇が南北方向に流れをせき止めな
がら、高く大きなポリウムを有する居室へ
誘う流れであり軸線である。このように平面
の方向性は大きく外観によって与えられる
が、実際のアプローチは細かく区切られた空
間を紆余曲折しながら、徐々に進んで行き、最
深部の二階十畳の間で、のびやかな高台の庭
園を介して、明るい水面に開かれていくこと

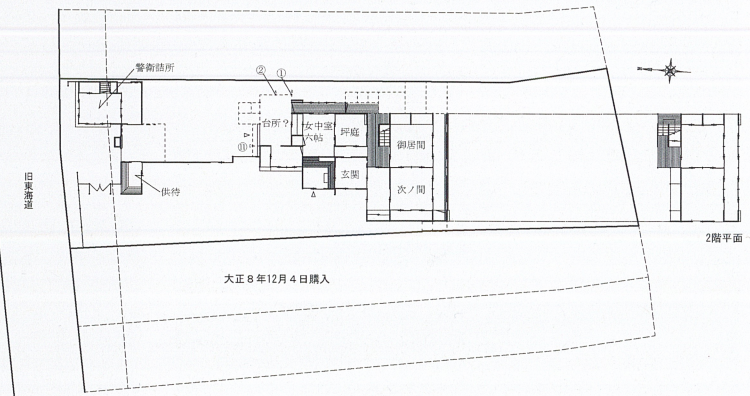


図4 敷地と平面の変遷(創建(大正9年)時)

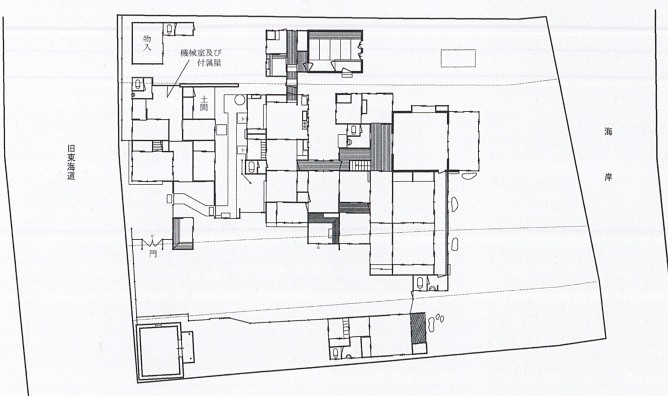


図5 敷地と平面の変遷(道路拡幅(昭和13年)時)

になる。これはまさしく伝統的数寄屋造の空
間導入の巧みな手法である。

—— 近代和風住宅の特徴

坐漁荘は大正九（一九二〇）年の竣工で、昭
和四（一九二九）年に、洋風の応接室、ペランダ
（サンルーム）と設備回りを増築している。そ
の増築部の床下や壁耐力増強のために関東大
震災（一九二三年）以後に開発された耐震補強
金具が適応されているのは肯けるが、既存部
にも新しい補強金具が導入されている。しか
も坐漁荘の二階天井裏や小屋組には、立体的
差梁やリングとターンバックルが併用された
筋違金具が入っており（図6）、痕跡調査からみ

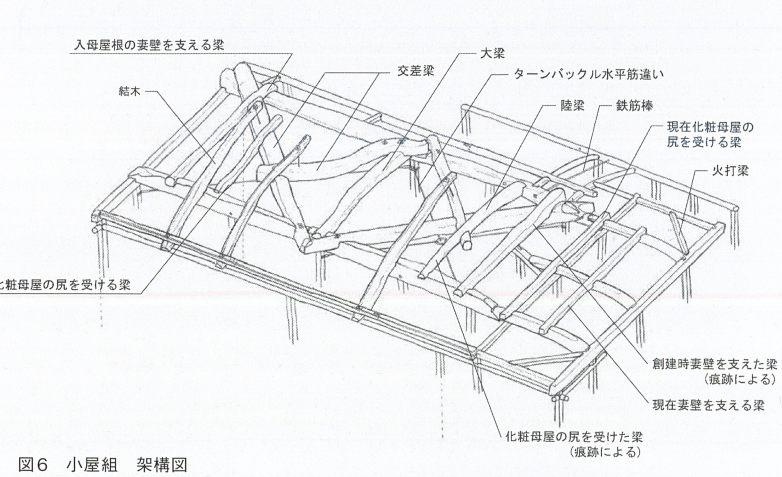


図6 小屋組 架構図

て創建時からものと思われる。即ち、坐漁荘は関東大震災以後、より耐震補強に注力したのみならず、当初から特別に耐震意識を高めていたことがうかがわれる。

伝統数寄屋住宅において、襖表面の唐紙の意匠は重要な位置を占めるが、坐漁荘では、揉み紙、雲華紙(写真3)、丁子引きなど多彩な技術を用いたものが部屋の格式に従ってほぼ順当に使用されている。しかし、杉皮紙(写真4)と呼ばれる、杉皮を薄く剥いで筒状に貼った襖は復原が困難で、かろうじて保管されていたものを修理して使わざるをえなかった。これは玄関四畳半と化粧室に使われており、必ずしも格式通りというわけではなく、偏愛といっ



写真3



写真4

園寺の政治家としての歩みや交友などは、ほぼ明らかになっているが、ここでは西園寺の政治家像を追跡することが目的ではない。西園寺の考え方や性格を追うことが、坐漁荘の肝所を明らかにすることにとって有効なのかどうか検討したい、ということである。

そこで私が注目したいのは、名門貴族の出自にしては、幕府討伐軍の小さな大将を務めてはいるが、そこから芽を出すこともなく、宮中でも果たした役目が見つからないこと。明治三(一八七〇)年から十年にわたるフランスでの生活や、帰国後さらに複数国の外交官として渡欧していること。政治家としては伊藤博文との関係が深く、政友会での行動も自分から主体的にというより成り行きでという感が拭えないことだ。

明治維新の第二世代に当り、やがて押し上げられるように元老の地位に就くが、近衛文麿との微妙な関係を見ると、西園寺という政治家像の前に、複雑な人間性が見えてくるように思われる。それは先の視えないまま激しい荒波を生きた明治の典型的な青春像とは別に、不可避的に異なる原理原則を体験し、どれもが抜き差しならぬことを鋭敏に感じ取らざるを得なかった知性が、にもかかわらず太い大河を見出すことができないまま、せめて重層的な非決定の精神と感性を保持し続けたのが西園寺ではなかったのか。とすれば、ここにも、もう一つの明治の青春像が垣間見えるようだ。西園寺は不安な青春像を抱いたまま老年を生きたのである。(続く)

参考文献
博物館明治村 二〇一五 「西園寺公望別邸「坐漁荘」修理工事報告書」
御厨貴 二〇一〇 「権力の館を歩く」 毎日新聞社

てもいいほど好まれた竹材の使用とともに個人の趣向やもてなし意識の顕在化かもしれない。

一方、伝統木造の細部技術は見所のハイライトの一つであり、特に江戸時代から近代にかけての技術は、細部加工の見事さが突出し、施主も大工もそれを誇る意識が強くなりが



写真5



写真6

であった。坐漁荘の二階の桐欄間(写真5)は、桐板の芯のウロに見立てた割竹が象嵌(ぞうかみ)されており、極めて繊細で高度な技の冴えである。しかしこの欄間は広々とした続き間を滑らかに連結しており、細部が目立つものではない(写真6)。こうした技術の特質は坐漁荘では随所に見られるが、さりげなさが信条と思われるのが気付かれないことが多い。

白竹を木賊張りした湯殿の船底天井は、手の込んだ仕事であるが、湯滴が雫となって垂れない工夫でもあるからこれも目立たない(写真7)。



写真7



写真8

真し。また洗い出しの腰壁から床への切り替えは巾木を使わずに、湯垢が固まらないように円弧に仕上げられている。これも贅の子が敷かれているので見えない。その他新しい各種の電気設備など積極的に導入が図られているところなどは確かに近代的ではあるが、特別に珍しいものではない。

一方、洋風応接間・サンルームの漆喰塗天井に化粧梁・根太を現しにし、桑材のように見える「桑だまし」という伝統的な加工技術を駆使している(写真8)。明り障子のように見える白色ステンドグラス(オパールセント)を使用するなど、既存の和風部分に洋風の空間を調和させようとする工夫であろう。このような、伝統と近代の間、あるいは両者の調和が坐漁荘の中心にある問題で考慮に値すると思われる。

二 もう一つの明治青春像

前述のように、坐漁荘の竣工が大正九年であるから、何故明治建築なのか訝しく思われるかもしれない。

しかし坐漁荘の主人公は、住友家の財力、その技術陣、興津の大工たちと重要なプレイヤー達はたくさん挙げられるが、単にここに住んだからというだけでなく、その特質やそれが何であるのか、と考えた時、西園寺公望の人となり(写真9)が俄然として浮上してくるのである。

西園寺公望は嘉永二(一八四九)年、京都貴族の名門清華家の一つである徳大寺公純の次男として出生、同じ清華家の西園寺師季に実子がなかったため、二歳で養子となり西園寺家を相続した。実兄・実弟とも活躍した人物であったが特に住友家に婿入りした十五代住友吉左衛門(友純)が大きな影響を与えた。西

のくち渦巻ポンプ 14件目の重要文化財に指定決定!

去る十月十五日に博物館明治村内に展示されている「のくち渦巻ポンプ」の重要文化財指定が決まりました。この指定決定により、博物館明治村の重要文化財は建造物11件、歴史資料3件の合計14件となりました。

こののくち渦巻ポンプは、東京帝国大学工科大学機械科教授井口在屋が研究した理論に基づき、井口の教え子畠山一清(株)荏原製作所創業者が所属する国友機械製作所が製造したものです。渦巻ポンプは十八世紀にフランスで

発明され、十九世紀半ばにアメリカで実用化されたといわれています。日本へは一八八〇年代に灌漑用として初めて設置されました。

のくち渦巻ポンプは、それまでのポンプに比べて効率がよく、その優れた機能性により数多く製造され、農業・鉱工業等諸産業の発展や、上下水道など生活基盤の充実に貢献しました。

博物館明治村で保存展示されているのくち渦巻ポンプは、のちに井口式渦巻ポンプとして汎用化される前の、最初期のかつ現存最古のものです。機械工学的には教官である井口在屋が西洋の渦巻ポンプの理論を整理、体系化し、弟子である畠山一清が製品化、量産化を達成した高等教育の成功例と位置付けることができ、また当時人口増に伴い食

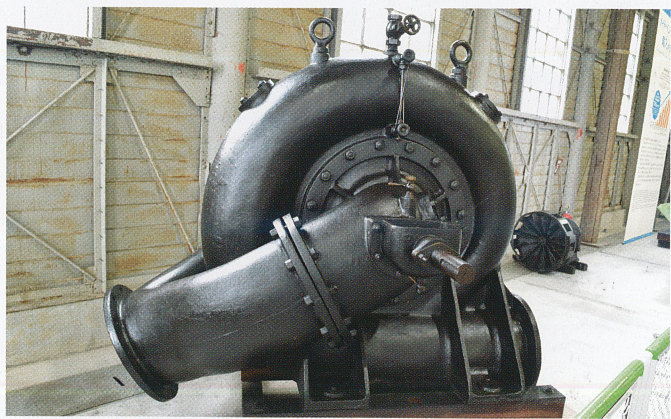
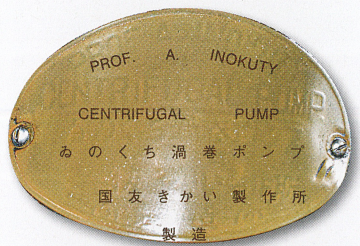
料増産を余儀なくされていた時代に、耕地面積拡大に多大な貢献をした社会経済史的にも重要な役割を果たしたものです。

このポンプには銘板がついており、表面はかなり摩耗していますが、かすかに

PROF. A. INOKUTY
CENTRIFUGAL PUMP
国友きかい製作所
製造

この記載が確認されました。

国友機械製作所は、井口の当時最新とも最高ともいわれる技術を用いながらも、日露戦争後の不況により倒産。井口の紹介で国友機械製作所の技師長として働いていた畠山一清は、大正元(一九一二年)十一月、主幹に井口を迎え、自ら所長となり「のくち式機械事務所」を開業し、大正九年に社名を「荏原製作所」と変更し、今日に至っています。



製作年 1912(明治45)年 製作者 合資会社国友機械製作所
寸法(単位:mm) 長さ:1,882 高さ:1,765 幅:1,442
吸込口 縦:382 横:352 / 吐出口 縦:380 横:380

「のくち渦巻ポンプ」の調査にあたっては、西日本工業大学池森寛名誉教授に多大なるご教示を賜りました。紙面を借りて謝してお礼申し上げます。

註1 井口は明治二十(一八八八)年までは、INOKUCHIと英語表記しているが、明治二十八(八九二)年以降はINOKUTYを用いている。これは井口は「固有名称、特に人名の場合には特例は認めてよい」(英語ではYはIと同じ音のため用いられることもあり、さらには語尾にはiよりもyがふさわしいという理由からINOKUTYとした)註2という言葉を残している。
註2 出水 力 「日本の機械工学の開拓者井口在屋(2)」『技術と文明2』一九八五年
※博物館明治村ではこれまで「のくち式渦巻ポンプ」と表記していましたが、銘板に記載されている「のくち渦巻ポンプ」と表記を変更します。



近代監獄建設の歩み

5丁目52番地 金沢監獄正門・5丁目62番地 金沢監獄中央看守所・監房

明治四十(一九〇七)年に竣工した金沢監獄正門と金沢監獄中央看守所・監房が「明治五大監獄」の一つであることはよく

知られたところですが。今回は明治村に多数保管されている「金沢監獄」の建設に関する文書資料や図面から金沢監獄の工事経過について紐解いていきたいと思います。

「金沢監獄建築工事施工経過報告」(註1、註2)は竣工に至るまでの経緯や経費、工事人工などを知ることができます。当初、金沢監獄は明治二十八年に改築の意向が県会において示され、翌年から五か年で計画がなされていきました。しかし、実際の着工は明治三十四年で、竣工は明治四十年三月三十一日です。起工が遅れた理由として、「戦後(註3)ノ後ヲ受ケ物價昂騰殊ニ建築用材騰貴ノ為メ到底右費額ヲ以テ工事ヲ完了スル能ハサルニ至リシト一方建築学ノ進歩ハ自然當初ノ設計ヲ變更セサルヘカラサルノ必要ニ迫リ」と原因が記されています。ただ、明治三十三年十月から府県監獄費および府県監獄建築修繕費の全額が

国庫支弁となったこともあり、石川県としては改築に慎重になっていたのかもしれない(註3)。また、図1によれば監獄の敷地買収に関して「紛議」が起きたことも示されています。後の時代では、刑務所の移転や建設に対し、反対運動があったことを思えば、監獄建設にあたり幾重にも乗り越えなければならぬ困難があったことがうかがえます。

次に図面をご紹介します。図2は監獄内の建物の建てられた年度が色分けされており、どのように敷地内に配置、建設されていったのかがよくわかります。これより明治村に移築された正門は、実際には明治三十八年に造られたことが、一方、明治村にある中央看守所と第五舎房は、図3の図面より明治三十四年に建てられたことが判明しました。

これらがどのような計画のもと順次建

てられていったのかは現段階では詳らかではありませんが、囚人による直営工事のため、工事に使役した囚人たちの収監の問題もあつたことでしょう。実際に金沢監獄の工事には、名古屋、岐阜、福井、大阪の監獄からそれぞれ囚人を移監、工事にあたらせており、総人員四〇四、〇六四名、一日平均一八四名が従事したと記録されています。

金沢監獄に関する歴史資料は、当時の典獄と国や県とのやりとりなど詳細な記録が残っています。今後、これらの資料を紐解き、ときに他の事例とも比較しながら少しずつご紹介していきたいと思います。

法務省名古屋矯正管区による広報展「再犯防止ってなに？」を開催

「愛知県再犯防止啓発月間」及び「社会を明るくする運動強調月間」期間中の7月1日(金)から8月31日(水)まで、名古屋矯正管区は「再犯防止ってなに？」と題した広報展示を、名鉄岩倉変電所(博物館明治村内)で行いました。

展示では再犯防止推進計画の概要、就労や社会復帰に向けた刑務作業を中心とした刑事施設における再犯防止施策等のパネル掲出及び刑務所作業製品の紹介等を行いました。

海上保安庁第四管区海上保安本部による「海図150周年記念展」を開催

わが国独自の海図作製開始から150周年を迎えることを記念し、第四管区海上保安本部は「明治から現代までの海図・海の調査の変遷」と題した企画展示を、8月7日(日)から9月26日(月)まで、北里研究所本館・医学館2階(博物館明治村内)

で行いました。展示では、水路局設立当時の海図や海図の印刷に用いた銅版、水深を測る際に使用した測量機器等を紹介しました。

「SLオーバーホール基金」寄附者対象のSL特別撮影会を実施

村内で動態保存しているSL12号(明治7<1874>年輸入)及びSL9号(明治45<1912>年輸入)の定期的な大規模修理工事のための基金「SLオーバーホール基金」へ20口※以上の

ご寄附を頂いた方々に限定で、10月16日(土) SL特別撮影会を実施しました。あいにく12号は修理中のため、9号をメインとした撮影会となりました。 ※1口10,000円。

第四管区海上保安本部による「灯台記念日153周年記念イベント」を開催

11月1日「灯台記念日」は本年で153周年を迎えることを記念し、第四管区海上保安本部は「灯台記念日153周年記念イベント」を、10月29日(金)から11月1日(月)まで、品川燈台・菅島燈台附属官舎(博物館明治村内)前広場で行いました。

イベントでは各種灯器の展示や重要文化財指定灯台・海上保安庁業務等に関するパネル展示やパンフレット配布とともに、品川燈台内部の特別公開と博物館明治村学芸スタッフによるガイドを行いました。

音楽イベント「明治村であいましょう～古今東西の響き～」を開催

阿川佐和子村長によるナビゲートとトークを交えながら、北インドの伝統的な楽器タブラの第一人者U-zhaanによる演奏と、音楽家・蓮沼執太によるリードオルガン演奏をコラボレーションさせた音楽イベントを11月13日(土)に、聖ヨハネ教会堂2階(博物館明治村内)で行いました。

法務省名古屋矯正管区より感謝状授与

犯罪や非行をした方々の円滑な社会復帰を支援し、犯罪のない安全なまちづくりを実現するための「矯正広報」活動に関して、長きにわたり協力・貢献したことが認められ、7月14日(水)に名古屋矯正管区長より感謝状を授与されました。